

平成 17 年度 農業法人短期動向調査結果 —景況感と設備投資意向—

農業の担い手として期待されている農業法人の動向把握を目的として、(社) 日本農業法人協会会員を対象に景況感と投資意向に関するアンケートをおこないました。

この度、調査結果を取りまとめましたのでご紹介します。

【要約】

○平成 17 年度上半期の景況 DI は畜産部門、加工・販売等部門はプラス。耕種部門はマイナス。

平成 17 年度上半期の景況 DI は調査先全体では 1.1 とわずかなプラス。部門別にみると、畜産部門 (20.4)、加工・販売等部門 (9.1) はプラスであったが、耕種部門 (▲11.1) はマイナスであった。最も景況 DI が低かったのは稲作 (▲18.7)、最も高かったのは採卵鶏 (37.2) であった。

見通し DI は耕種部門、畜産部門、加工・販売等部門ともにプラスで調査先全体では 17.8 であった。

○設備投資意向の有無は実績とほぼ同程度

平成 16 年度に設備投資を行った経営の割合は、耕種部門 (71%)、畜産部門 (69%)、加工・販売等部門 (59%) であった。一方、設備投資の意向有りとする割合は、平成 17 年度では耕種部門 (71%)、畜産部門 (69%)、加工・販売等部門 (53%)、平成 18-19 年度では耕種部門 (72%)、畜産部門 (65%)、加工・販売等部門 (63%) であった。

平成 16 年度の投資実績に比べ、平成 17 年度、平成 18-19 年度の投資意向はほぼ同じ割合である。

○耕種部門、加工・販売等部門では前向き投資の意向が過半を占める

耕種部門では前向き投資 (既存部門の増産・規模拡大+新規部門の導入) の意向が過半を占め、加工・販売等部門では前向き投資 (既存部門の増産・規模拡大+新規部門の導入) の意向が約 6 割を占める。畜産部門では既存部門の増産・規模拡大の割合が平成 17 年度意向で減少しているが、H18-19 意向では再び増加し規模拡大意向の先細りは見られない。

※ 本資料は、日本銀行内金融記者クラブ、農林水産省内各記者クラブに同時に配布しています。

(本件に関するお問い合わせ先)

農林漁業金融公庫調査室 担当者 佐藤, 和泉

TEL 03-3270-2684 fax 03-3270-2825

(社)日本農業法人協会 担当者 中出, 数納

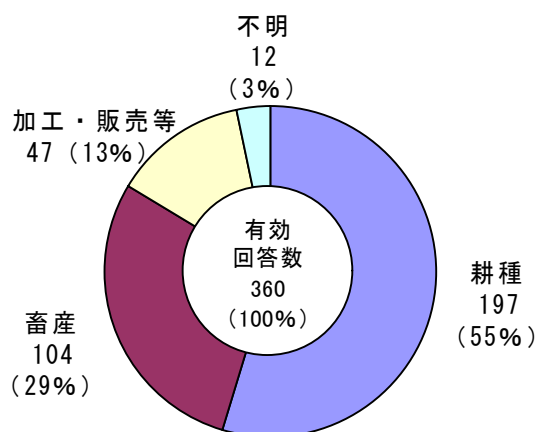
TEL 03-5156-0365 fax 03-5156-0366

(資料)

【調査要領】

- ①調査時期：平成17年9月1日～20日
 - ②調査内容：収支実績、経営見通し等の変化方向と設備投資の意向
 - ③調査方法：FAXによる送付・回収
 - ④調査対象：(社)日本農業法人協会会員1,620先^(注1)
 - ⑤回収数：360先^(注2)(回収率22%)
- (注1) FAX登録のある会員数
(注2) 設問に対して1問でも回答のあった先を含む。

回答状況等



部門分類

耕種部門 (197)	稲作 (68), 畑作 (15), 露地野菜 (12), 施設園芸 (49), 茶 (15), きのこと (13), 果樹 (13), その他耕種 (12)
畜産部門 (104)	酪農 (21), 肉用牛 (20), 養豚 (30), プロイラー (6), 採卵鶏 (26), その他畜産 (1)
加工・販売等部門 (47)	販売 (18), 加工 (14), 観光・交流 (2), 飲食 (2), その他 (11)

(注1) 売上第1位部門により、耕種、畜産、加工・販売等の三部門に分類

(注2) ()内は有効回答数

売上規模別回答割合

	(単位 %)								
	2千万円未満	2千万～5千万円	5千万～1億円	1億～2億円	2億～5億円	5億～10億円	10億～20億円	20億円以上	
全体 (n=322)	3.7	16.8	20.8	25.8	20.8	4.0	5.6	2.5	
耕種 (n=178)	5.6	23.0	26.4	25.8	14.6	2.2	2.2	-	
畜産 (n=97)	1.0	7.2	11.3	28.9	28.9	7.2	12.4	3.1	
加工・販売等 (n=47)	2.1	12.8	19.1	19.1	27.7	4.3	4.3	10.6	

【調査結果】

I 景況感（平成 17 年度上半期について）

- ◆平成 17 年度上半期の景況 DI は、調査先全体では 1.1 とわずかにプラスとなった。部門別にみると耕種部門（▲11.1）ではマイナスとなったが、畜産部門（20.4）、加工・販売等部門（9.1）はプラスであった。経営改善・経営発展の取り組み努力から、稲作では販売価格 DI の落ち込みが L 資金の調査先と比べ小幅ながらも、販売価格の下落による収支の悪化から収支 DI（▲12.3）及び資金繰り DI（▲16.9）がマイナスとなり、景況 DI（▲18.7）はマイナスであった。養豚では米国産牛肉の輸入停止の影響等により価格が堅調に推移したことから景況 DI（22.1）はプラスであった。採卵鶏では前年度上半期まで続いた価格低迷を脱したことから収支実績、資金繰りが回復し景況 DI（37.2）はプラスとなった。
- ◆見通し DI は、耕種部門（10.6）、畜産部門（24.0）、加工・販売等部門（34.1）と各部門がプラスとなった結果、全体（17.8）であった。

（注 1）DI とは、「良くなった」と回答した割合から「悪くなった」と回答した割合を差し引いた値で、個々の経営者の判断を集計して業況を指標化したもの。

（注 2）景況 DI は、収支 DI、資金繰り DI、時間的ゆとり DI の平均値。

図表 1 景況天気図（平成 17 年度上半期）

部門	景況DI		収支DI		資金繰りDI		時間的ゆとりDI		販売価格DI		生産コストDI		今後の見通しDI	
	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先
全体														
耕種														
	うち 稲作													
畜産														
加工・販売等	-		-		-		-		-		-		-	

（注 1）DI の値とお天気マークの関係は： ≤ -50 < ≤ -20 < ≤ -5 < ≤ 5 < ≤ 20 <

（注 2）（参考）L 資金の結果は、2～4月に実施した16年実績についての調査（農林公庫「農業景況調査結果 スーパーL資金先の近況」（平成17年））による。

図表 2 景況 DI

部門	対象先	景況DI	収支DI	資金繰りDI	時間的ゆとりDI	販売価格DI	生産コストDI	今後の見通しDI
全体	調査先	1.1	11.6	1.5	▲ 9.8	▲ 20.8	▲ 19.9	17.8
	(参考)L資金先	(1.8)	(3.0)	(1.0)	(1.4)	(▲ 29.0)	(▲ 20.8)	(9.9)
耕種	調査先	▲ 11.1	▲ 5.7	▲ 10.9	▲ 16.5	▲ 45.3	▲ 20.9	10.6
	(参考)L資金先	(▲ 6.8)	(▲ 9.5)	(▲ 7.7)	(▲ 3.1)	(▲ 45.9)	(▲ 21.2)	(▲ 2.6)
稲作	調査先	▲ 18.7	▲ 12.3	▲ 16.9	▲ 27.0	▲ 46.9	▲ 18.5	1.6
	(参考)L資金先 (都府県)	(▲ 23.0)	(▲ 39.1)	(▲ 27.6)	(▲ 2.3)	(▲ 74.6)	(▲ 20.7)	(▲ 13.4)
施設園芸	調査先	▲ 0.7	8.3	2.1	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 34.0	14.6
畜産	調査先	20.4	37.6	21.6	2.0	24.8	▲ 18.6	24.0
	(参考)L資金先	(24.1)	(35.4)	(23.8)	(13.2)	(14.7)	(▲ 19.8)	(42.5)
酪農	調査先	7.9	9.5	4.8	9.5	▲ 15.0	0.0	30.0
	(参考)L資金先 (北海道)	(20.1)	(25.1)	(18.9)	(16.2)	(▲ 14.2)	(▲ 21.1)	(32.5)
	(都府県)	(14.1)	(22.2)	(10.1)	(9.9)	(▲ 8.1)	(▲ 18.7)	(48.9)
養豚	調査先	22.1	28.5	24.1	13.8	31.0	▲ 40.7	25.0
	(参考)L資金先	(34.3)	(49.7)	(33.6)	(19.5)	(52.0)	(▲ 21.8)	(46.6)
採卵鶏	調査先	37.2	69.3	53.8	▲ 11.5	42.3	4.0	30.8
	(参考)L資金先	(34.0)	(50.5)	(43.8)	(7.7)	(53.4)	(▲ 10.6)	(64.4)
加工・販売等	調査先	9.1	27.3	8.7	▲ 8.7	▲ 18.2	▲ 18.2	34.1

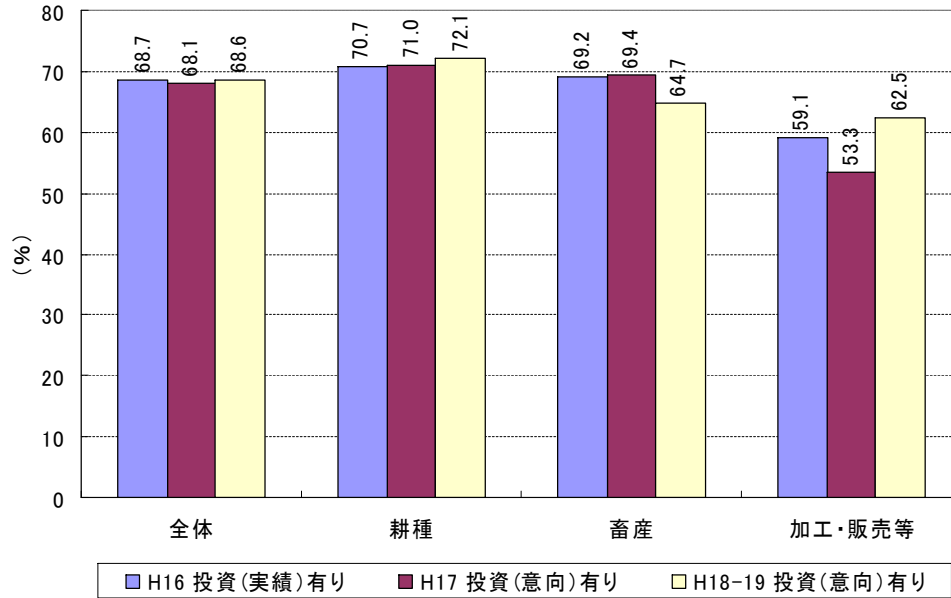
出所：（参考）L 資金先の結果は農林公庫「農業景況調査 スーパーL資金先の近況」（平成17年）による。

II 設備投資

1 設備投資の有無

◆H16年度に設備投資を行った経営は全体で69%であり、今年度以降の設備投資意向はH17年度68%、H18-19年度69%と堅調な推移を示している。なお、平成17年度の設備投資意向を部門別で見ると耕種部門(71%)、畜産部門(69%)、加工・販売等部門(53%)であった。

図表3 設備投資有りと回答した割合



(単位 %)

	H16(実績) (A)	H17(意向) (B)	H18-19(意向) (C)	(B)-(A)	(C)-(A)
全体	68.7	68.1	68.6	▲ 0.6	▲ 0.1
部 耕種	70.7	71.0	72.1	0.3	1.4
門 畜産	69.2	69.4	64.7	0.2	▲ 4.5
加工・販売等	59.1	53.3	62.5	▲ 5.8	3.4

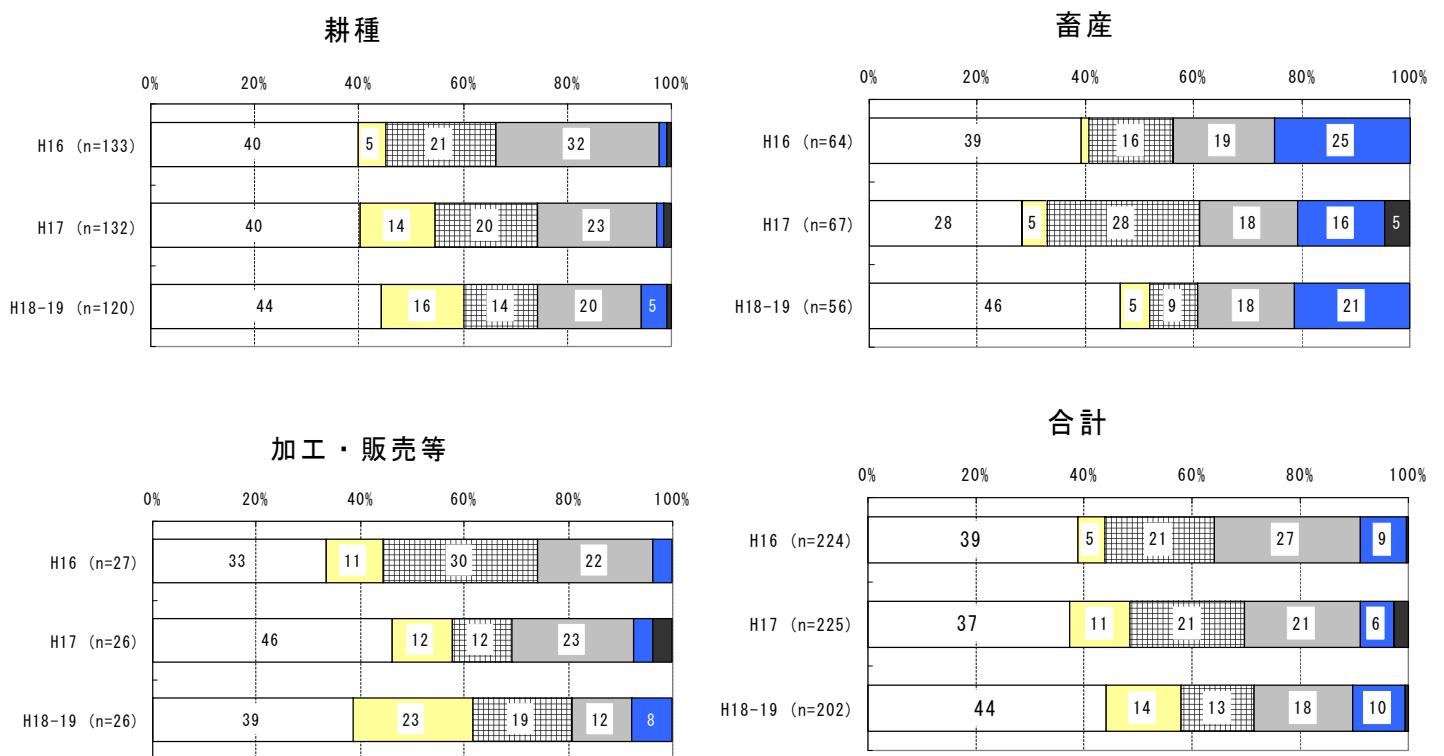
(参考) 有効回答数

	H16 (実績)		H17 (意向)		H18-19 (意向)	
	有効回答数	うち投資有	有効回答数	うち投資有	有効回答数	うち投資有
合計	319	219	329	224	290	199
耕種	184	130	186	132	165	119
畜産	91	63	98	68	85	55
加工・販売等	44	26	45	24	40	25

2 設備投資の目的

- ◆ 耕種部門では H16 実績で既存部門の増産・規模拡大 (40%) に次いで更新・維持・補修 (32%) が多いが、今後の意向では新規部門の導入 (H16 実績 5%、H18-19 意向 16%) が増加した結果、前向き投資 (既存部門の増産・規模拡大+新規部門の導入) で 60%を占めている。
- ◆ 畜産部門では H16 実績で既存部門の増産・規模拡大 (39%) に次いで環境対策 (25%) が多いが、H17 意向では規模拡大割合 (28%) が減少し、合理化・省力化 (28%) が増加している。しかし、H18-19 意向では再び規模拡大割合 (46%) が増加しており、規模拡大意向の先細りは見られない。
- ◆ 加工・販売等部門では H16 実績で既存部門の増産・規模拡大 (33%) に次いで合理化・省力化 (30%) が多いが、今後の意向では前向き投資 (既存部門の増産・規模拡大+新規部門の導入) が約 6 割を占める。

図表 4 設備投資の目的 (実績および今後の意向)

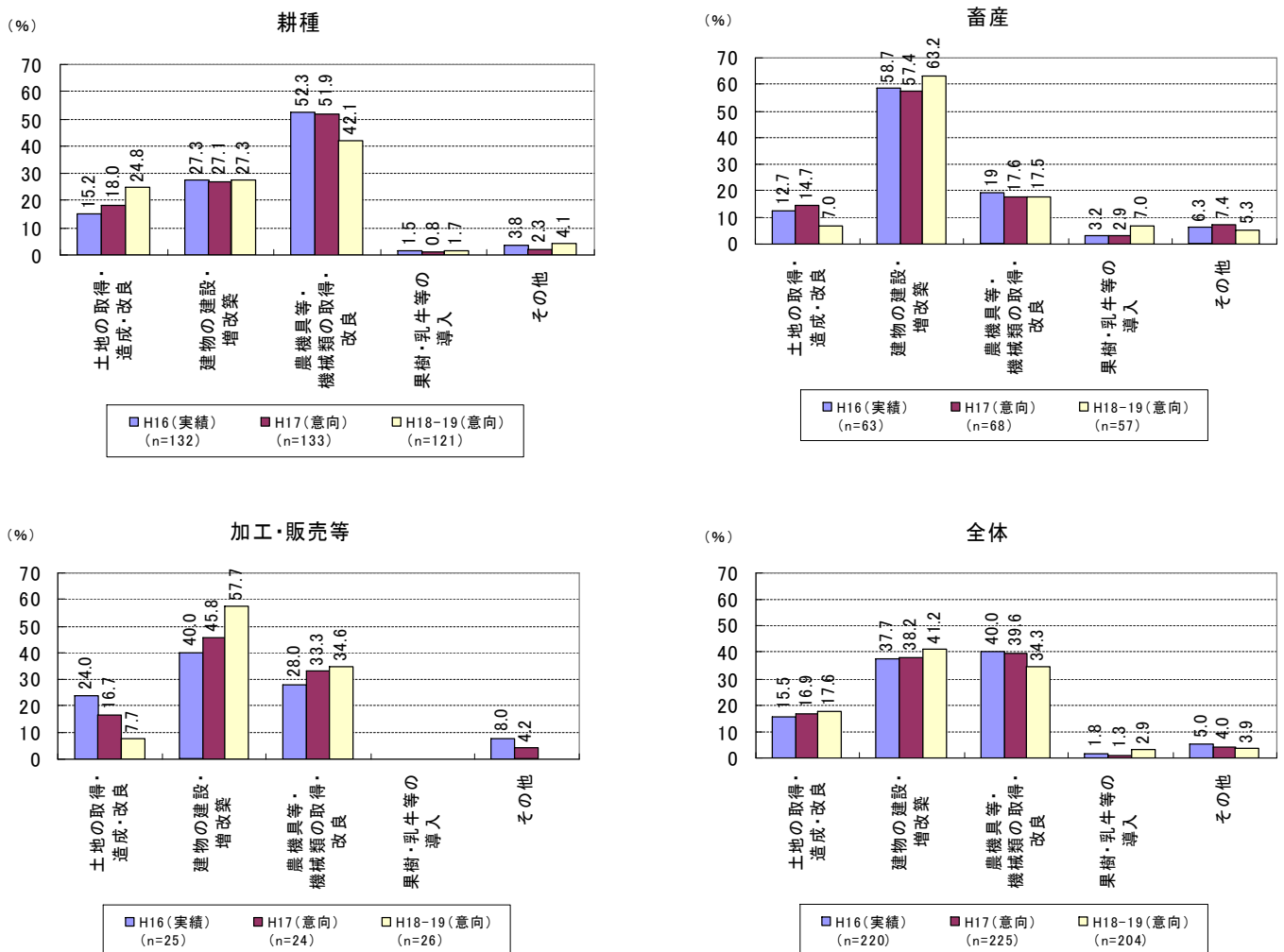


- 既存部門の増産・規模拡大
- 更新・維持・補修
- 新規部門の導入
- 合理化・省力化
- 環境対策
- その他

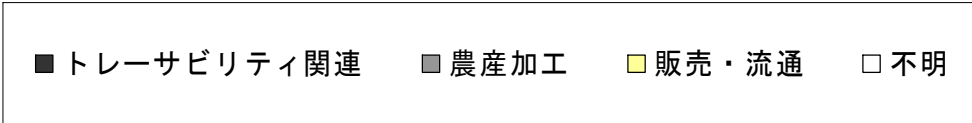
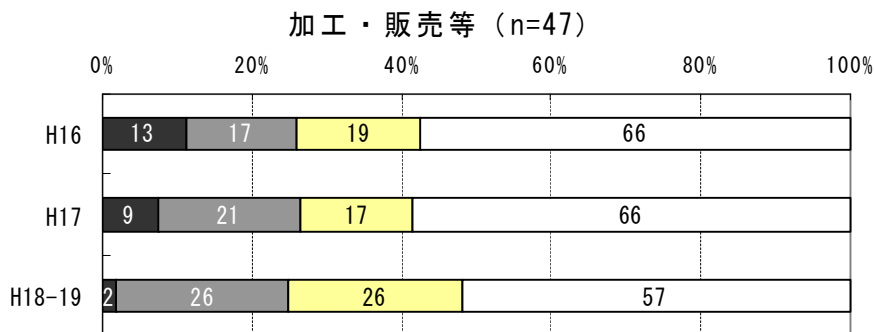
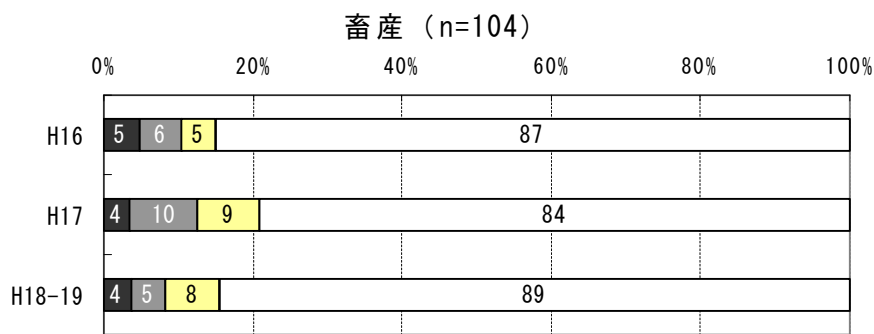
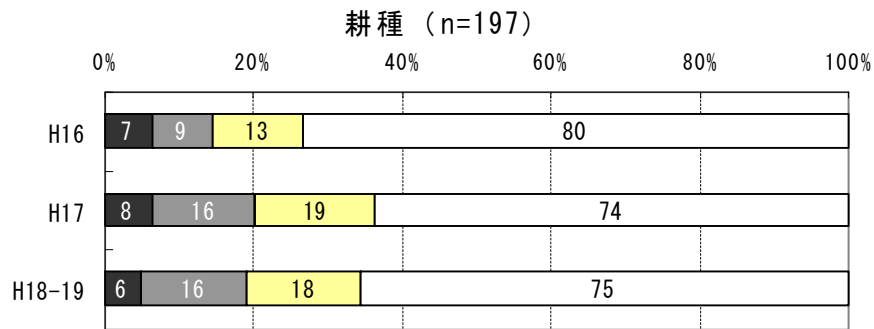
3 設備投資の内容（金額第1位のものについて）

- ◆設備投資実績で割合の大きい内容は、耕種部門は農機具等機械関連投資（H16実績52%）、畜産部門は建物関連投資（同59%）、加工・販売等部門は建物関連投資（同40%）であった。
- ◆トレーサビリティ、農産加工、販売・流通に対する取り組みについて実績と意向を比較すると、耕種部門では農産加工、販売・流通への取り組み意向が高くなっている。加工・販売等部門ではトレーサビリティ関連の取り組み意向が減少しており（H16実績13%→H18-19意向2%）、トレーサビリティ関連投資実施済の経営が多いことが推測される。

図表5 設備投資内容の割合（実績と意向の比較）



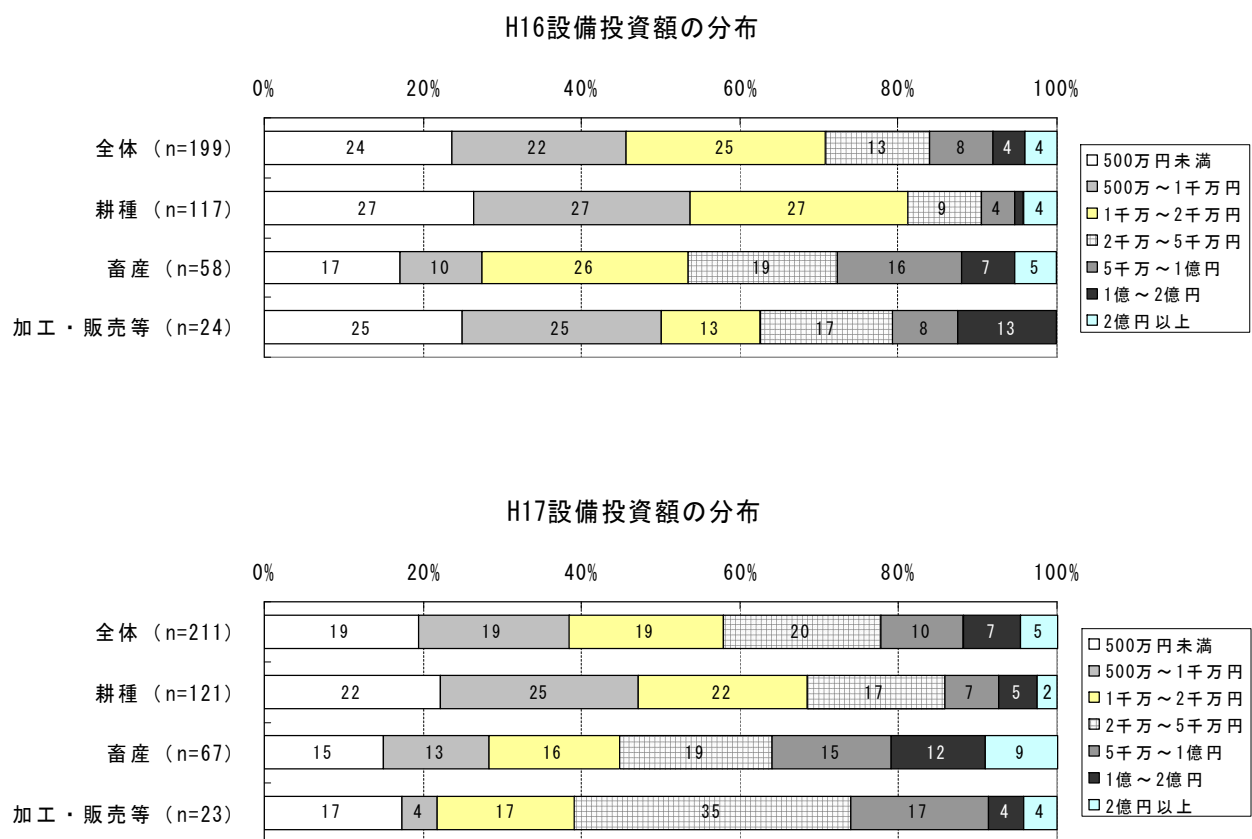
図表6 特別な取り組み（トレーサビリティ、農産加工、販売・流通）



5 設備投資額

- ◆1先当たりの平均設備投資額は大型の設備投資に左右される部分があるが、耕種部門では3,352万円（H16実績）から2,911万円（H17意向）に減少した一方、畜産部門では5,183万円（H16実績）から7,944万円（H17意向）に増加し、加工・販売等部門では2,663万円（H16実績）から1億491万円（H17意向）に増加した。
- ◆H17年度の投資額の分布をみると、耕種部門では1,000万円未満の割合が47%、5,000万円以上の割合が14%であった。畜産部門では1,000万円未満の割合が28%、5,000万円以上の割合は36%となっている。加工・販売等部門では1,000万円未満の割合が21%、5,000万円以上が25%を占める。

図表7 設備投資額の分布



図表8 平均設備投資額

(単位 万円)

	H16 (実績)			H17 (意向)		
	先数	平均値	中央値	先数	平均値	中央値
全体	199	4,365		211	5,451	
耕種	117	3,352	800	121	2,911	1,000
畜産	58	5,183	1,600	67	7,944	2,000
加工・販売等	24	2,663	900	23	10,491	2,000

(注) 先数は有効回答者数

Ⅲ よせられたご意見（自由記述）

1 経営改善や経営発展に向けて取り組んだこと（又は取り組み中のこと）

- ア 生産の安定化、多品目化の有機施設野菜事業を中心に**商品のブランド化**、販売の拡大。（施設園芸、茨城県）
- イ **耕畜連携**→水田と肉牛の共生、堆肥用と自給飼料、畑へトウモロコシ作付（ホールクロップ、稲藁、籾殻）。（採卵鶏、千葉県）
- ウ 米の価格が下がったのに対応していくため、米粉パン、弁当など生産物を活かしての加工施設の増設をした。（稲作、富山県）
- エ 別会社にて、**農産加工**を手掛ける。（その他生産、石川県）
- オ 現在緑化樹の生産・流通販売をしているが、11月～4月に集荷等が集中するため、どうしても夏場の資金繰りが厳しい。これを打開するためタケノコ（6～10月出荷の新品種）を生産していき1年を通して、安定した資金繰りできるよう頑張っている。（その他生産、宮崎県）
- カ 新人の採用と育成。（販売、山形県）
- キ **社員教育**の実施（農業機械のオペレーター等）。（稲作、宮城県）
- ク I S O 9001 の取得済み・トレーサビリティの実行中・生産性の向上と農場買収による増産体制の確立。（加工、山口県）
- ケ 売上向上実践塾に通い、プロの専門家たちの指導をお願いしている。経営指針を創る会に入り、自社の経営理念を成文化した。（稲作、宮城県）
- コ 7月にHP（Webショップ）を開設。アイテムが少ないので、これから増やしていく。（茶、宮崎県）
- サ 16年度台風被害が多く、17年度まで影響している。今後、自然災害に対するリスクの回避を行い経営の安定を図る。また、自然災害の少ない経営に切り替えを行う。（稲作、佐賀県）
- シ 労働生産性向上と規模拡大による増産に対応すべく新工場建設に着手。品質向上と環境への取組みを具体化するため I S O 9001 と 14001 を取得。全社をあげて意識高揚とレベル向上に努めている。（茶、鹿児島県）
- ス G A P の導入。（その他生産、青森県）
- セ 体系見直しによる製造原価の削減。創業 20 周年事業の実施による社員の意識改革。（肉用牛、岩手県）
- ソ 改善のため税務面での（特に消費税）研究。経営発展のため加工の拡大。（販売、和歌山県）
- タ 廃物（食物性残渣）の引き取りを積極的に。飼料を自家生産し、飼料仕入れコストを下げる。（酪農、三重県）
- チ 総合して、リーフ茶からドリンクに変わって来たことで値段が安くなった。生産の方は質から量となって来たため、苦勞している。生産は天気によって 80% 左右されるので、防霜ファンや電気料など経費の面で負担もかかる。助成金のカットも多く今迄以上に経営に苦勞している。（茶、鹿児島県）
- ツ **土作り**。（畑作、山梨県）

2 経営でお困りのこと、農業施策への意見等

- ア 重油の値上がりにより暖房費が増えた。(施設園芸、山口県)
- イ 飼料原料価格変動リスクのある自家配合農家(丸粒または混合飼料使用農家)にも、配合飼料価格安定基金制度と同等の制度創設ができないものか。(採卵鶏、島根県)
- ウ 農振農用地区域内農地においてレストラン等の建築が進められないこと。(その他生産、石川県)
- エ 欧米に比較し、日本は屠畜料金が著しく高い。食肉検査員は、公務員がやるのではなく民間に任せるべきだ。(養豚、宮城県)
- オ 米代が下がり、手元に残る金が少なくなってきた。(稲作、岐阜県)
- カ 鳥インフルエンザの発生で困っている。(ブロイラー、茨城県)
- キ 有害獣が多い(イノシシ、猿、鹿)。(稲作、福井県)
- ク 資金を借入れする時**担保がない**、といつも言われる。当社は緑化樹を棚卸として決算計上しているので、棚卸(商品)を担保として認めて欲しい。(その他生産、宮崎県)
- ケ 資金準備をする時、農業系資金は申請から実行まで時間がかかりすぎる。(きのこ、福岡県)
- コ 人材を募集したいが、まず研修で試さないと定着率が悪い。特に外の部門からはなおさら。(加工、佐賀県)
- サ 人材の採用先が少ないことで困っている。(販売、山形県)
- シ **土地の集積**が出来ない。(畑作、群馬県)

(参考) 景況天気図

部門	景況DI		収支DI		資金繰りDI		時間的ゆとりDI		販売価格DI		生産コストDI		今後の見通しDI		
	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	(参考)L資金	調査先	
全体															
耕種															
	うち 稲作														
	うち施設園芸	-		-		-		-		-		-		-	
畜産															
	うち 酪農														
	うち 養豚														
	うち採卵鶏														
加工・販売等	-		-		-		-		-		-		-		

(注1) DIの値とお天気マークの関係： ≤ -50 < ≤ -20 < ≤ -5 < ≤ 5 < ≤ 20 <

(注2) (参考) L資金の結果は、2～4月に実施した16年実績についての調査（農林公庫「農業景況調査結果 スーパーL資金先の近況」（平成17年））による。